

牧草と園藝

昭和32年春季飼料特集号

雪印のたね

中央研究農場

夕張郡長沼町字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社



1

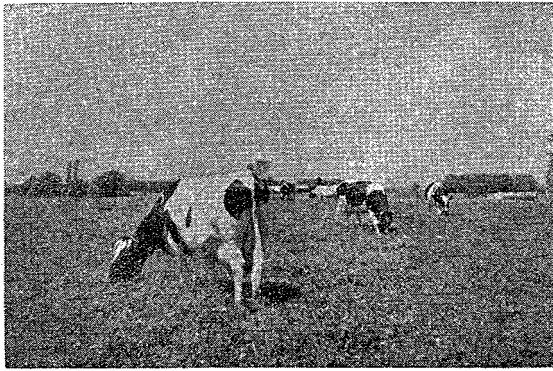
雪印種苗株式会社

昭和三十三年一月一日(毎月一回)発行

酪農経営と飼料作物

栄光に輝く昭和三十三年の新春を迎えるに当り、多年「雪印のたね」を御愛用賜わります全国の需要者各位の御繁栄を祈念し、併せて日頃の御引立に對し心から感謝申し上げます。

さて酪農経営が有利に成りたつかどうかという問題は、自然的・社会的・経済的な事情即ち土地の關係(広さ・肥力その他)、酪農生産品の集荷・輸送の關係、加工・機械の設備内容、販売消費の關係等複雑な要素を持つてゐるが、酪農生産の集約化と集約化とを圖れば特殊な状態にある一部を除けば、北は北海道から南は九州に至るまで全国的に酪農を有利に行うことが出来るものである。



ラデノクロバ放牧地

以上のことは農家の経営外の条件であつてもう一つ大切な条件は農家の経営技術である。即ちその第一は自給飼料生産の基礎の如何であり、第二は労働力、第三は施設である。

有名な酪農学者フレージャーはこの内件的に關して、酪農経営の要点は

- 一 泌乳能率の良い牛
- 二 適切な飼料作物の栽培
- 三 適切な飼料作物の栽培
- 四 良い牛乳の販売

であることを強調している。この内件的条件の中で早速今年度に於て実行することが出来、且つ問題の核心をつくるのは、結局酪農経営の最終生産物である牛乳の販売による収益を最大にするため、牛乳そのものの生産を増加し、且つ牛乳生産の経費を節約する自給飼料の生産を如何にするかということである。

多くの酪農経営の内容に關する調査を見ても、飼料費が牛乳生産費の大半を占め、殊に購入飼料費が四〇〜五〇%を占めてゐることは普通であり、中には広い土地面積を持ちながら購入飼料が乳代の八〇%を占めてゐる様な場合も見受けられ、これでは酪農経営の安定を期待するのが無理である。

乳牛は所謂大家畜に属し、而も日量一斗を超える牛乳を生産するため他の家畜よりも極めて多くの飼料を必要とする。第一表

第一表 家畜別年間飼料必要量の比較

豚	馬	乳牛	可消化蛋白質(%)	可消化纖維粉(%)	可消化蛋白質(%)	可消化纖維粉(%)	算出基礎
二二	二五	三六	一〇	一〇	一〇	一〇	体重五〇〇
三三	三六	四一	一〇	一〇	一〇	一〇	体重二〇〇
六六	七二	八〇	一〇	一〇	一〇	一〇	体重四〇〇
三三	三六	四一	一〇	一〇	一〇	一〇	体重二〇〇
六六	七二	八〇	一〇	一〇	一〇	一〇	体重四〇〇
三三	三六	四一	一〇	一〇	一〇	一〇	体重二〇〇
六六	七二	八〇	一〇	一〇	一〇	一〇	体重四〇〇

は乳牛と他の家畜の飼料の必要量を比較したものであるが、よく見ると飼料の量と共に質的なるもの即ち蛋白質を非常に多く必要とすることが判る。したがつて無計画な飼料の給与では生産をあげることはおろか、その健康の維持さえ困難となるのは当然であり、自給飼料に準備せず購入飼料に特に蛋白質を求めるとすれば、飼料代がかさみ採算がとれなくなるのはこれまた当然の結果と云えよう。

第三表 北海道の普通地に於ける飼料作物の反当り栄養生産量

飼料作物	反当り飼料單位(實)	反当り飼料單位(蛋白質)	反当り飼料單位(纖維)
青刈赤クローバー(二番)	四〇〇	一五〇	二〇〇
禾本科牧草(青刈)	二〇〇	八〇	一〇〇
ラデノクロバ(青刈)	一〇〇	四〇	五〇
青刈デントコーン	一〇〇	四〇	五〇
家畜子	一〇〇	四〇	五〇
大豆	一〇〇	四〇	五〇
小麦	一〇〇	四〇	五〇
燕麥	一〇〇	四〇	五〇
実	一〇〇	四〇	五〇

第二表は北海道に於ける乳牛経済検定の成績の抜萃であるが、自給飼料たる粗飼料及放牧、繁牧の利用率高い村(例えば音別村)の牛乳の一升当りに要する飼料費はもつとも低く十二円程度であるに反し、蛋白質を濃厚飼料に五〇%以上依存している村(例えば広島村、多度志村など)の飼料費が二十四円以上となり、現行乳価の六〇%に及ぶことが判る。

結論として牛乳生産費を節約するためには飼料の自給率を高めなければならない。かくすことによつて酪農経営成立の内的条件の重要な基礎が充足されることが判断される。そしてその自給率を高めるためには、山野草や農場副産物を利用することは勿論である。

第二表 昭和三十一年度乳牛経済検定の成績(北海道)

村名	牛乳一升当り飼料費(円)	粗飼料(%)	濃厚飼料(%)	放牧(%)	糞肥(%)
多度志村	二五・〇	五〇	五〇	五〇	五〇
広島村	二五・〇	五〇	五〇	五〇	五〇
土別市	二五・〇	五〇	五〇	五〇	五〇
八雲町	二五・〇	五〇	五〇	五〇	五〇
音別町	二五・〇	五〇	五〇	五〇	五〇
中標津町	二五・〇	五〇	五〇	五〇	五〇

注 F E 飼料單位, D T P 可消化蛋白質の夫々より算出した給與飼料全體に對する割合を示す。